

佐世保工業高等専門学校	開講年度	令和03年度(2021年度)	授業科目	有機化学 I
科目基礎情報				
科目番号	0032	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	物質工学科	対象学年	2	
開設期	後期	週時間数	後期:2	
教科書/教材	マクマリー有機化学(上) 第9版、J. McMurry 著、伊東ら共訳、東京化学同人			
担当教員	越村 匡博			
到達目標				
1. イオン結合と共有結合の違いを説明できる。 2. σ結合とπ結合を説明できる。 3. 混成軌道の概念を用いて単結合を説明できる。 4. 酸および塩基の強さとpKaについて説明できる。 5. アルカンの構造式を書き、命名することができる。 6. シクロアルカンの立体配座を説明できる。				
ループリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 (到達目標1、2)	有機化学で主に扱う結合(共有結合、イオン結合)について理解し、違いが説明ができる。σ結合とπ結合について軌道図を用いて説明できる。	有機化学で主に扱う結合(共有結合、イオン結合)について説明ができる。σ結合とπ結合が説明できる。	有機化学で主に扱う結合(共有結合、イオン結合)について説明ができない。σ結合とπ結合が説明できない。	
評価項目2 (到達目標3)	原子軌道の混成を理解し、メタン・エテン・エチレンの結合を混成軌道で説明できる。	原子軌道の混成を理解し、単結合・二重結合・三重結合の違いが説明できる。	原子軌道の混成を理解できない。	
評価項目3 (到達目標4)	置換基が及ぼす電子効果について説明できる。	pKaを用いて酸と塩基の強さについて説明できる。	酸と塩基の強さについて理解できない。	
評価項目4 (到達目標5)	IUPAC命名法に基づいて、複雑なアルカン・アルケン・アルキンが命名できる。	IUPAC命名法に基づいて、基本的なアルカン・アルケン・アルキンが命名できる。	IUPAC命名法に基づいて、アルカン・アルケン・アルキンが命名できない。	
評価項目5 (到達目標6)	シクロアルカンの環ひずみを理解し、最も安定な立体配座が説明できる。	シクロヘキサンの代表的な二つの立体配座が説明できる。	シクロアルカンの環ひずみを理解できない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	有機化合物の結合、混成軌道、構造と命名法について学習する。演習問題を解くことによって有機化学の基礎を理解する。			
授業の進め方・方法	予備知識：一年次の「化学」における電子配置、イオン、共有結合、電気陰性度、酸・塩基について復習しておく。 講義室：2C教室 授業形式：講義、演習 学生が用意するもの：分子模型			
注意点	評価方法：定期試験(後期中間、後期期末)により評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：教科書本文中の問題および章末問題を解いておくこと。自己学習時間を1時間以上確保する。 オフィスアワー：随時			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	原子における電子の配置について理解し、有機物が炭素骨格を持つ化合物であることが説明できる。	
		2週	イオン結合および共有結合について理解し、説明できる。Lewis構造式とKekulé構造式を書くことができる。	
		3週	混成軌道を用いた物質の形が説明できる。	
		4週	混成軌道を用いた物質の形が説明できる。σ結合とπ結合の違いを分子軌道を使って説明できる。	
		5週	電気陰性度を説明でき、結合の極性を予測できる。	
		6週	pKaとpHについて説明でき、酸の構造がpKa値に与える影響について理解できる。	
		7週	有機酸と有機塩基について電子対の動きを理解できる。	
		8週	これまでの内容に関する問題を解くことができる。	
	4thQ	9週	一般的な官能基の構造を説明できる。	
		10週	IUPAC命名法に従い、直鎖アルカンおよび直鎖アルキル基を命名することができる。	
		11週	IUPAC命名法に従い、分枝アルカンを命名することができる。	
		12週	アルカンの性質を説明できる。エタンの三次元的な構造がイメージできる。アルカンの立体配座を理解し、Newman投影式を書くことができる。	
		13週	骨格構造という書き方を説明できる。	

	14週	シクロアルカン、シクロアルカンにおけるシーストランスクンス異性	IUPAC命名法に従い、シクロアルカンを命名することができる。シクロアルカンのシーストランスクンス異性を説明できる。
	15週	種々のシクロアルカンの立体配座、シクロヘキサンのアキシアル結合とエクアトリアル結合、シクロヘキサンの配座の動きやすさ	シクロヘキサンの配座異性体が説明できる。
	16週	後期定期試験	これまでの学習内容に関する演習問題を解くことができる。

評価割合

	試験	演習	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	80	20	100
分野横断的能力	0	0	0